

第78回九州山口薬学大会 学校薬剤師協議会運営委員会 報告書

山口県学校薬剤師会

監事 西村正広

日 時：平成29年9月16日（土） 14：45～16：45

場 所：シーガイアコンベンションセンター

出席者：沖田敏宜 西村正広

司会：宮崎県薬剤師会 常務理事 黒木 芳弘

宮崎県薬剤師会 副会長 榎園 勝

宮崎県薬剤師会 会長 小山 明俊

1. 開会のことば
2. 開催県あいさつ
3. 協議

【議題1】 公定法に基づく環境衛生検査器具の選定について

福岡県：田川地区での検査器具を表記し、貸出している。

山口県：支部ごとに保有している器具を一覧表にして提出。同等以上の方法の例をもう少し具体的に記載して欲しいと要望した。

佐賀県：県薬検査センターを利用することが多いので、各地域薬剤師会で簡易検査キットを購入することはない。

長崎県：学校環境衛生基準に記載のあるものを選択。

大分県：県薬検査センターが使用している器具を参考にしている。

鹿児島県：県薬としての簡易検査キットの購入は現在の所なく、検討もしたことはない。

沖縄県：県薬検査センターと協力して行っている。

【議題2】 スマートドラッグについて

日本の中高校生にスマート（賢い）ドラッグの蔓延が危惧される。親が自分の子供に服用させている例があり、個人輸入できるようだ。薬物乱用につながる可能性もあり、今後注意していかなければならない。各県での対応はできていない。

【議題3】 薬物乱用防止教室の進め方について

各県から、現状報告があった。山口県からは、薬物は怖いものだという脅しから、自分を大切にし、誘いにのらない強い意志をもつという内容に変化している。夢を持とうというスライドの例を報告した。

【議題4】 各県の現状と課題

10月に熊本で開催予定のブロック連絡会議で、話し合う事に決定。

4. 次回開催県あいさつ

大分県薬剤師会 佐藤英隆

11月3日（土・祝）4日（日）に別府国際コンベンションセンターで開催する。

5. 閉会のことば

宮崎県薬剤師会 理事 猿川 隆文

レセプション後、学薬関係者の懇親会が、20時よりホテル JAL シティ宮崎で開催された。

シンポジウム 8 「学校保健を支える薬剤師 ～学校薬剤師の責任と役割を考える～」

日 時：平成29年9月18日（月・祝） 9：00～12：00

場 所：シーガイヤコンベンションセンター

基調講演 「学校保健安全法に基づく学校薬剤師の役割」

文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 小出 彰宏先生
健康診断は完全実施されているのに対して、学校環境衛生検査は完全実施されていないのが現状である。この原因の一つとして、学校の設置者、学校及び学校薬剤師の環境衛生検査に対する認識が不十分であることが挙げられる。現在、学校環境衛生検査の見直しを検討している。この改訂は、関係者に認識させるいいチャンスだと思う。学校薬剤師の活動は、本業を休んで行かなければならず、負担が大きいでしょうが、児童生徒のために今後とも協力いただきたい。

「くすり教育」に対する学校薬剤師の役割」

公益社団法人 福岡県薬剤師会 常務理事 宮谷 英記先生
授業の様子を動画で示され、パワーポイントのスライド作成の綺麗な撮影方法など細かく教えていただいた。

「くすり教育」へのサポートを見直す」

公益社団法人 熊本県薬剤師会 常務理事 富永 孝治先生
T.T の授業（Team Teaching）の取り組みを詳しく話された。薬剤師の「くすり教育」が浸透していない現状においては、「くすり教育」は、「薬物乱用防止教育」とは、区別して行うこととされて来ましたが、「くすり」と「薬物」をきちんと分けて説明すれば、また、医薬品の間違った使い方も「乱用」になるという考え方から「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」で、「くすり教育」も一緒に行ってもよい。むしろ、そうして下さいと言われた。

学校薬剤師による「くすり教育」の現状～（一社）宮崎市郡薬剤師会のとりのくみ～

一般社団法人 宮崎市郡薬剤師会 中森健太郎先生
平成19年度から平成28年度までに幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校および認定こども園において学校薬剤師が行った「健康教育（喫煙防止、飲酒防止、薬物乱用防止、薬の正しい使い方、アンチドーピング、生活習慣・食育、エピペン、その他）」の件数を詳しく話された。対象者の延べ人数は、50,088 人でした。その都度報告記録し、集計しておく必要があると思いました。